

JASMA 会報

2013年1月発行（季刊）社団法人日本縫製機械工業会

CONTENTS

新年ご挨拶	1
年頭所感	2
新年賀詞交歓会開催される	3
第33回ホームソーイング小・中・高校生作品コンクール入選作品決定	4

新年ご挨拶

社団法人日本縫製機械工業会
会長 安井義博



年頭にあたり、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

我が国経済は、昨年の上半は厳しい状況が続く中、復興需要等を背景として緩やかな回復となりましたが、後半から世界景気の減速等を背

景として弱い動きとなりました。しかしながら、本年は「巳（み）年」であり、草木の生長が極限に達し次の命が作られ始める時期と言われております。

世界景気の動向としましては、当面、弱いながらも回復が続くと見られており、アパレル産業におきましても、中国市場のみならず、ベトナム、インド、バングラディッシュ、インドネシア等、アジア新興国の動きも注目されています。今後も日本を始めとして西南アジア・東南アジア新興地域の繊維・アパレル産業全体が、大きく発展するよう期待しております。

縫製機械産業では、このようなグローバル化の動きの中にあつて、国内関係業界との連携を強化するとともに、中国及びドイツ等の海外関係業界団体との交流、協調を密にし、世界の繊維・アパレル産業の発展に寄与していきたいと考えております。

このような状況の中において、当工業会は本年4月1日に一般社団法人へ移行する準備を進めております。新法人移行後は、より充実した事業展開等に努めてまいります。

本年は次の事業を中心に進めていく所存でございます。

先ず一つ目は次回の国際アパレルマシンショー〈JIAM〉への取り組みです。昨年9月19日から22日の4日間、「繊維の街・大阪」で「新生JIAM」としてJIAM2012を開催し、前回は大きく上回る多くの来場者が訪れ無事に終了することができました。特に7年振りの日本開催となりましたので、多くの日本企業が出展し高い技術力を世界に発信するとともに、テーマゾーン、シンポジウム・セミナー、各企業ブースは連日活況を呈し、充実した成果あるショーとして成功裡に終了することができました。これも出展者の方のみならず来場者の方々からのご支援、ご協力によるものと深く感謝する次第です。

次回のJIAMは4年後の2016年に日本で開催します。今回のJIAM2012の成果を踏まえ、皆様にとってより良いJIAMとして開催していきたいと存じます。

二つ目は、家庭用ミシンを使ったモノづくりの普及促進です。「第33回ホームソーイング小・中・高校生作品コンクール」は、今回も多く作品が寄せられ、応募校数は昨年を上回る613校、応募点数は過去最高の5,118点となりました。今回からアニメやゲームのキャラクターをモチーフに製作した「アニメ・ゲームキャラクターコスチューム作品部門」を設けました。来る3月9日（土）には表彰式を開催し、入選作品の発表を行う予定です。今後も個性豊かな作品の創造とミシンソーイングにより、我が国の「モノづくり」文化のすそ野が拡大することを期待しております。

最後に昨今の企業を取り巻く環境は、依然として厳しい状況ですが、経済産業省をはじめ関係諸機関と連携を図りながら、業界のより一層の発展に向けて努力してまい

所存でございます。

本年の皆様の一層のご活躍とご多幸を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

年頭所感



経済産業省製造産業局
産業機械課長 須藤 治

平成25年の新春を迎え、謹んでお慶びを申し上げます。

さて、世界経済は、引き続き欧州政府債務危機やアメリカの「財政の崖」といった景気の下振れリスクを抱えつつ、以前より懸念されていた中国景気が目に見えて成

長テンポを鈍化させているという予断を許さぬ状況で新年を迎えました。また、昨年、中国における反日デモが、日本の産業機械メーカーの中国ビジネスにも少なからぬ影響を与え、中国ビジネスの難しさについて改めて考えさせられる機会となりました。

このように不安定な時こそ、短期の景気認識を超えた、中長期の時代認識に立った骨太の取組を、我々は進めなければならぬと思います。先進国の少子高齢化が進む一方で、途上国は人口が増加しており、世界人口は70億人を突破し増加を続けています。中国、ASEAN、インドは、テンポが緩まっているとは言え引き続き数%の成長率を続けており、こういった新興国におけるインフラ開発、都市開発、資源・食料への需要増が世界経済を牽引することは間違いありません。また、エネルギーでは、需要面では新興国を中心にエネルギー消費が増加し、供給面では非在来型天然ガス開発だけでなく豪州等における在来型天然ガスの開発が進められており、天然ガスが石炭と並ぶ主要な一次エネルギーの地位を占めていくでしょう。

経済産業省は、この数年、「世界経済の成長を日本の成長に取り込む」ということで、戦略分野を策定して、その促進に取り組んでまいりましたが、上述の世界の中長

期的構造変化を踏まえて、これまで以上に、関連産業の振興を強力に進めたいと思います。

一方、国内に目を転じますと、人口減少と経済成長鈍化による国内市場の縮小、高齢化や労働力人口の減少、エネルギー供給不安、製造業における新興国企業との競争激化といった諸課題に囲まれております。こういった課題を解決しながら新しいビジネスを創出しようというのが、今後も変わらぬ経済産業省の基本方針だと考えています。

産業機械課は、昨年11月、厚労省と連名で「ロボット技術の介護分野における重点分野」を策定・発表しました。今や団塊の世代が65歳以上となり、今後10年間で日本の総人口に占める高齢者の割合は30%に達します。介護を巡る様々な課題に対して有効な手段を講じていくことが急務となっており、課題解決の一端をロボット技術が担っていきたくと考えております。

製造業の国内維持も、引き続き我々の重要な課題と認識しています。今年は平成23年度補正予算による国内立地補助金を措置しました。今後に向けても、法人税引き下げや研究開発減税といった税制改正要望を行っておりますが、企業が恒久的に工場や研究拠点の立地先として日本を選択してくれるような国内立地環境について、広い視点から考えていきたいと思っております。

産業機械課は、これからも、皆さんの生の声を聞き、それを産業政策に反映させていきたいと思っておりますので、良いアイデアやお困り事があったら、気軽にお声を掛けてください。

最後になりましたが本年が皆様方にとって更なる飛躍の年となりますよう祈念いたしまして、新年の挨拶と代えさせていただきます。

「新年賀詞交歓会開催される」

当工業会の平成25年新年賀詞交歓会が、1月17日（木）午後1時30分から日本工業倶楽部3階大ホールにおいて開催されました。経済産業省をはじめ各関係団体と当工業会関係者、報道関係者等、約110名の出席のもと盛大に執り行われました。

開会にあたり、当工業会の安井会長から挨拶として、縫製機械産業は厳しい状況が続いているが、年後半以降、景気回復とともに中国をはじめベトナム、インド、バングラディシュなどアジア新興国を中心に需要が回復することを期待している。昨年の9月「JIAM2012」を7年振りに大阪で開催し、前回は大きく上回る多くの来場者が訪れ連日活況を呈し、充実した成果あるショーとして成功裡に終了することができた。次回の「JIAM」は4年後の2016年に日本で開催する。「第33回ホームソーイング小・中・高校生作品コンクール」は、今回も多く作品が寄せられ、応募校数は昨年を上回り応募点数は過去最高となった。今後も個性豊かな作品の創造とミシンソーイングにより、我が国の「モノづくり」文化のすそ野が拡大することを期待していると述べられました。

続いて、ご来賓として出席された経済産業省製造産業局産業機械課 須藤課長殿から、日本経済の原点は製造業・ものづくりである。日本の中でコアとなる研究開発、製造技術の開発が行われ、コアとなる生産ラ

インがあり、それを踏まえ海外で堂々と戦っていく事業環境を構築させたい。日本縫製機械工業会は、昨年7年振りに大阪で国際アパレルマシショ（JIAM2012）を開催し、特別企画、行事等を計画、工夫し成功裡に終了した。また、日本にとって一番大切な人材育成、ものづくりの裾野を拡げるといった観点から、ホームソーイング小・中・高校生作品コンクールを実施している。今後とも産業における競争環境を改善することに邁進し、企業の皆様方の弛まざる努力と行政施策の両輪で明るい年にしていきたいとのご挨拶がありました。

その後、当工業会の中村副会長の乾杯発声の後、和やかな雰囲気での歓談が行われ、中締めを廣瀬副会長が行い、盛況のうちに終了しました。



安井 義博 会長



須藤 治 産業機械課長



中村 和之 副会長



廣瀬 恭子 副会長

第33回ホームソーイング小・中・高校生作品コンクール入選作品決定

全国の小学生、中学生、高校生を対象に実施した第33回ホームソーイング小・中・高校生作品コンクールは、応募校数は前回は上回る613校、応募点数は過去最高の5,118点

の応募がありました。厳正な審査の結果、入選作品などが次のとおり決定しました。

1. 作品賞

- 最優秀賞 5点
- 優秀賞 23点
- アイデア賞 3点
- 佳作賞 36点
- 努力賞 173点
- 全国ミシン商工業協同組合連合会技術賞 1点

2. ホームソーイング振興最優秀校賞

- 小学校の部 松伏町立金杉小学校 (埼玉県)
- 中学校の部 大垣市立西部中学校 (岐阜県)
- 高等学校の部 栃木県立宇都宮中央女子高等学校 (栃木県)

(敬称略)



高橋 葉月

寒河江市立寒河江中部小学校
(山形県)



小学生の部

小物・インテリア
作品部門

中学生の部



上江洲 まりの

沖縄カトリック中学校
(沖縄県)

衣服
作品部門

岡本 佳子

葛城市立新庄中学校
(奈良県)



高校生の部

小物・インテリア
作品部門

加藤 友里

浜松開誠館高等学校
(静岡県)



衣服
作品部門

笠井 咲穂

千葉県立佐倉東高等学校
(千葉県)



編集後記

現在、急激な円安が報道されている。輸出の多い製造業は期待感をもって注視している。しかし、数年前と比べると超円高であるのは間違いない。

生物が生き残るのは、強さでも大きさでもない。あらゆる環境変化に対応できる適応力だ。同様に、企業も人も‘変化適応力’が求められる。まだ超円高が円安と思えるのは、日本製造業に変化適応力があり、それが日本製造業の‘底力’と‘しぶとさ’だと感じた。

(S.S)

JASMA 会報

Vol.9 No.4 2013年1月31日発行

社団法人日本縫製機械工業会
発行責任者：榎本 陸

〒105-0003 東京都港区西新橋1-14-12
TEL. 03-3597-0470 FAX. 03-3597-0477

URL <http://www.jasma.or.jp>
Eメール info@jasma.or.jp

本JASMA会報は、当工業会ホームページに掲載しております。